

令和6年度 コミュニティ・スクール推進における年次計画のふり返り

協議の柱【防災教育】

(評価) A：十分達成できた

B：ほぼ達成できた

C：達成できなかった（来年度の課題）

年次計画（令和6年度）		評 価	具体的な取組・反省・今後の対策
学校の目標	○ 友達と相談し、避難場所や避難経路を決定し、避難することができる。	A	<p>今年度は、避難途中に道が遮断されることがあっても、友達と相談して避難場所や避難経路を決定することができた。</p> <p>次年度は、本当に地震が起きたときの判断を自分達で決定する力が必要である。（窓を割って避難するのか、非常階段のドアを蹴破るのか、…など）また、遮断機が下りている際には通り抜けるのかの判断も必要である。</p> <p>個別に避難した際に、下学年がどのように避難をするのかも課題である。</p>
学校の活動計画	○ 地域団体が計画段階から参画した避難訓練の計画案の作成及び実施 ○ 地域団体が参画した校区内の防災マップ作成や図上訓練の実施		
地域の目標	○ 地域住民が門川小学校校区内のどこにいても災害に遭ったときにどこに避難するか判断できる。	C	<p>今年度は、地域で学校が行うような避難訓練ができていない状況だった。昨年1月の能登半島地震や、8月の地震など、身近に地震が起きている状況なので、地域の意識は高まっていると思う。しかし、地域住民の参加率は低い。窓を閉めていて防災無線を聞いていない。危機感が漂わない。地区の人と一緒に下校時避難訓練を行うとよいのでは。</p> <p>次年度は、防災意識を高めるために避難場所が分かる電光掲示板などを使って避難場所を知らせてはどうだろうか。また、参加率を上げるために、災害場所確認ウォークラリーを行ってはどうだろうか。</p>
地域の活動計画	○ 避難訓練の地域団体の計画からの参画及び実践を兼ねた内容（安全なルートを自分で探す、非常食を食べる）の実施 ○ 校区内の防災マップや事前学習（図上訓練等）への地域団体の参画		